

重監房資料館だより



くりう

No.16

2020.5

KURIU

巨星墜つ！藤田三四郎会長ご逝去



在りし日の藤田三四郎会長 (平成26年4月30日・重監房資料館会館式典にて)

「さんしろうです！」会長の挨拶はいつもこの自己紹介から始まりました。背筋をピッと伸ばして腹の底から響くような大きな声でお話しされました。大正15年生まれの三四郎さんは享年94歳、昭和20年終戦のおよそひと月前に栗生楽泉園に収容され、在園は実に74年と8ヵ月の永きにおよびました。昭和52年に入園者自治会(現「入所者自治会」)の会長に就任し、一時ブランクはあったものの永年にわたって入所者の療養環境の改善に取り組みまれてこられました。三四郎さんは若い頃発病して自殺を考えたこともあったそうですが、14歳で兵役に就く際、お母様から「お前は絶対犬死してはいけない。命は他人の為に捨てなさい。」と言われたことを思いだし、その教えに従って療友の為に会長の重責を担い、終生あらゆる労苦を惜しみませんでした。その心は今生の別れをもって自由の空に解き放たれ、天国に召されました。三四郎さんのご冥福をお祈り申し上げます。

退任のごあいさつ

前・重監房資料館学芸員 柏木 亨介

このたび、本年3月をもって重監房資料館を離れることになりました。当館学芸員として約4年にわたって調査研究と啓発活動に取り組んで参りましたが、その間、栗生楽泉園をはじめ全国の療養所の入所者や職員の方々にはたいへんお世話になりました。

また、来館者や当館支援者の方々にも有形無形のご協力を賜りました。おかげさまで企画展開催や学会発表などを滞りなく進めることができ、学芸員として充実した日々を過ごさせていただきました。

今後もこの経験を活かし、新たな職場においてもハンセン病対策の歴史について発信していく所存です。皆様方のこれまでのご厚情、ご協力に感謝を申し上げます。



任期満了にあたって

前・重監房資料館主任学芸員 北原 誠



私こと、このたび満65歳に達したため、約定により令和2年3月31日限りで重監房資料館の学芸専門職としての任期が満了になりました。

開館準備が始まりました平成25年12月1日から6年4ヶ月に亘り多くの皆様からご教示、ご助力を賜りました。ここに謹んで厚く御礼申し上げます。

偶然にも柏木学芸員の退任と重なる事になりましたが、今後も可能な限りのお手伝いをさせていただきたいと考えて

ておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、後任学芸員は今のところ未定となっております。ご見学いただく皆様には、欠員が補充されるまで当分の間常勤学芸員が黒尾部長のみとなるため、ご不便をおかけすることと存じますが、何卒事情ご賢察のうえ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

冬期も個人見学が可能となりました。

当館の所在地である上州草津温泉は、標高約1,000mの豪雪地域で、これまで冬期にあたる11月15日から4月25日までの間は、除雪等の関係もあって「団体専用期間」としておりましたが、昨シーズンより個人見学を希望される皆様も事前にお電話にてご予約いただけることといたしました。

お手数ですが、11月15日から4月25日までの間に個人見学を希望される皆様におかれましては、除雪等受け入れ準備の都合上、おおむね2日程度前までにお電話にてお問い合わせくださいようお願い申し上げます。その際、担当者がご希望の日時、ご来館人数等の確認をさせていただきます。なお、悪天候その他やむを得ない事情によりご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。 【問い合わせ先：重監房資料館 電話 0279-88-1550】

ハンセン病人権啓発映像の上映会を行いました。

重監房資料館開館5周年記念事業の一環として制作したハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり」の上映会を主要5都市で開催いたしました。

本来は、令和元年10月13日に前橋市で開催を予定しておりました開館5周年記念式典において一般公開上映をするところでしたが、折悪しく台風19号の関東地方直撃を受けてやむを得ず中止することとなってしまいました。

これまでの映像は、当事者である入所者のお話しが主でしたが、今回はご遺族にスポットをあてて「元患者の家族」の視点を描いたドキュメンタリー映像になっており、「知られてはならない秘密（上映時間37分）」と「仙太郎おじさん！ 貴方は確かにそこにいた（上映時間43分）」の二部構成となっております。第一部は、両親がハンセン病だったため、幼い頃に親元から引き離されて育った女性の苦悩と葛藤の半生にスポットをあてたドキュメンタリーで、第二部は、資料館の展示見学で偶然自分の家系にハンセン病患者だった親族の存在を示す記録を見つけた男性が、各地のハンセン病療養所を訪ね歩き、ついに遺骨を発見して郷里に埋葬するまでの経緯を描いています。



【テレビ局の取材風景（高崎会場=高崎中央公民館）】

令和2年1月18日（土）の高崎会場を皮切りに1月25日（土）東京会場、2月7日（金）岡山会場、2月10日（月）高松会場、2月28日（金）熊本会場において順次上映会を開催しました。折しも国内では、クルーズ船やチャーター機をめぐる新型コロナウイルスに感染した人や同乗者、医療関係者、ご家族らに対して「ばい菌」呼ばわりするいじめや、保育所の受け入れ拒否等の差別的行為が報じられ、世界中で病気を理由とした偏見差別が繰り返されている現実を目の当たりにして、この様な時こそ啓発が重要であるとの想いを強く持ちました。この度、各地で行った上映会の目的は、背景の異なる二人の元患者のご遺族の実体験を通して、多くの人に「人権とは何か」を考えていただく機会を提供することにあり、全会場を通じて延べ190人の皆様にご覧頂きご好評を博しました。この映像はDVDとして学校や団体に当館で貸し出し可能なほか、国立国会図書館、群馬県立図書館、大阪府立中央図書館、太田市立中央図書館、公益財団法人人権教育啓発推進センター人権ライブラリー、国立ハンセン病資料館図書室にも寄贈いたしましたので、個人での貸し出しご希望の方はそちらにお問い合わせください。



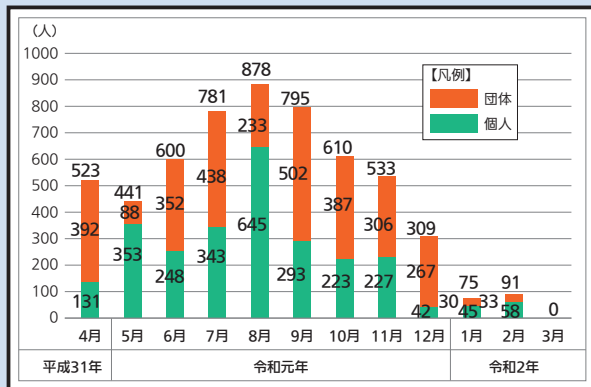
【会場内の様子（東京会場=日本教育会館）】



【高松会場全景（ポートホール高松）】

【令和元年度 来館者統計】

令和2年3月31日現在



令和元年度入館者数
 延べ 5,594人
 1日平均 20.1人
 開館以来延べ 39,639人
 ※新型コロナウイルス感染防止による除外期間
 令和2年2月29日～
 3月31日(27日間)

ホームページアクセス数
 令和元年度 58,931回
 開館以来延べ 264,395回
 ※アクセス数は、
 令和2年3月末までの累計

お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)

- ◎現在も、いじめや差別(ウイルス感染症)、障がい者の人権など「偏見」が間違いを生み出しかねない問題がたくさんあると思う。この場所があることで「人が人として生きる」ための正しい方向性に立ち返れる意義があると感じた。(東京都、44歳・女性、会社員)
- ◎ホームページや文献で見ると、実際に施設を見学して、当時「非人間扱い」され重監房に入れられた入所者の苦痛な思いを知ることができた。(沖縄県、46歳・男性、大学教員)
- ◎無知でいることが差別に繋がっていると思う。無知を知に変えて行くことがとても大切だと感じた。同じ過ちを繰り返さないためにはどうすべきか考えさせられた。(長野県、53歳・女性、会社員)
- ◎過酷さに息をのむ思いがした。私自身子供の頃に「この病気は怖い、うつる、気持ち悪い。」と思っていた。そういう私自身も加害者のひとりであると思い、こんなことを繰り返してはならないとの気持ちを持った。(神奈川県、53歳・男性、会社員)
- ◎世の中の風潮が一方向的に間違っていることに気がかず、信じられてしまう恐ろしさを感じた。今は情報の入手が早く多く得られるが、また拡散も早いのでそうしたことの恐ろしさも感じる。(埼玉県、52歳・女性、会社員)
- ◎代々皮膚科医の家系で、問題の時代も先祖は皮膚科医であった。何らかの形でかかわっていたかと思うと心が痛む。(東京都、51歳・女性、会社員)

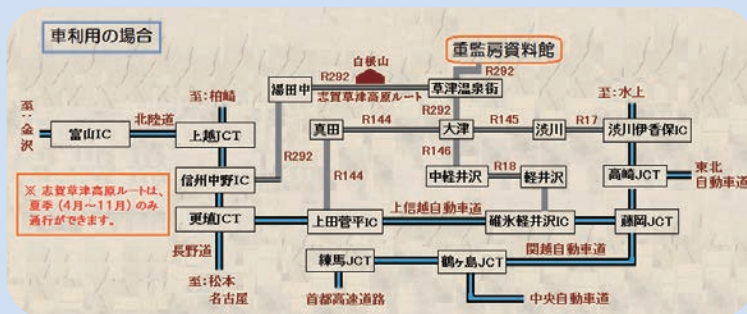
【この他にも、多くの皆様からご感想をお寄せ頂きました。有難うございました。】

ご利用案内・アクセス

入館料…無料

区分	通常期間(4/26～11/14)	冬期予約期間(11/15～4/25)
受付方法	団体要予約(個人は予約不要)	団体、個人とも完全予約制
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 ※最終入館 午後3時30分	午前10時00分～午後3時30分 ※最終入館 午後3時00分
休館日	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)・国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日	

※冬期も個人見学が可能になりました。事前にお電話でのご予約をお願いします。



※最新の道路通行規制や列車等の運行状況は関係機関にご確認ください。



重監房資料館だより「くりう」第16号【季刊】

発行日：令和2年(2020年)5月1日/企画・編集・発行：重監房資料館/ URL : <http://sjpm.hansen-dis.jp/>
 〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 TEL : 0279-88-1550 FAX : 0279-88-1553

重監房資料館はハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して国(厚生労働省)が設置した国立の資料館で入館は無料です。

